

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



編輯 須田圭二
 發行所 野上千鶴町
 印刷所 每日新聞株式會社

支那農村經濟問題 (三)

(2) 奸商の搾取

市場と農地との間に介在する中間搾取階級は軍閥官僚と結託し種々悪辣なる手段を講じ暴利を貪つて居る。

支那の農民は生産品の販賣には何等の組織もなく市價は悉く商人の手の中にあり、商人は農作物收穫時には常に市價を引下げて安く買取り若し農民が金を要する様な場合は容易に貸附けるが收穫時には商人が勝手に決めた市價で農作物を取り其上非常な高利を貪つて居る。又自己の暴利を貪らるが爲には手段を撰ばず排外排貨の黒幕となり脅押しをなし無智な農民を苦しめて居る。

最近支那農地で排日運動に反対し此の種奸商軍閥の打倒運動が潜在的に擡頭しつつあるのも當然の事と思ふ。

(3) 地主の搾取

支那の土地は大部分地主の所有で「耕者あれ共田地なしの嘆」がある。

W 生

大正七年北京農商部の調査によれば田を持つて居る農民は僅に五二—五三%となつて居る。農民に耕すべき田畑がなければ自然地主の剝削に甘んじて生命をつなぐ外はない夫れ故に地主の農民に對する態度は軍閥官僚土豪劣紳と何等異なる所がない。

支那の小作料は超經濟的地主は法外な小作料を捲き上げ其の上種々名目を附し附加小作料を徴收して居る(例へば家鴨や鶏等を飼育する時)支那の小作料は逆四分六分(地主四分)最高二分八分(地主八分)普通は五分五分である。

小作料の高低を測る簡單な標準は小作料と地價の百分比即ち購買年を見れば良い。

支那	江蘇省地價の八%	三年
廣東省同	一五%	六年
英國	産業革命時代	同 三〇三年
獨乙	大戰後	同 三〇年前後
英國	同	三〇三年
獨乙	ビスマルク時代	購買年 三〇三年
支那	同	三〇三年
廣東省同	同	三〇三年

山本三六郎著
 化學純絹絲の工業的完成
 伊太利蠶絲絹業の衰退原因と其の現況
 蠶絲業法規要論
 市田上縣野長 所行發
 會 究 研 學 科 絲 蠶
 (振替長野6413番)

上げられつつあるが支那では不釣合に引上げられて居る金陵大學教授米人バツク氏が江蘇省昆山、南通安徽省宿縣等を調査した結果は

地價 100 一四〇 三三〇
 小作料 100 一五〇 二四〇
 小作料の方が非常な上り方である。

(4) 高利貸の搾取

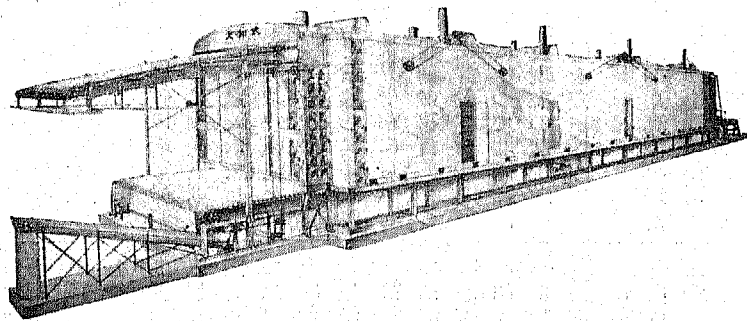
支那は世界各國に比し著しく金利が高い、金利の高いと言ふ事は金融市場に於て商業資本の需要が頻繁であるといふ事である。即ち支那は今尙商業資本活躍の域を脱せず商業資本の活躍は更に國民政府の財政根本方針たる公債政策と相俟つて公債庫券に對する思惑を煽り金融業者の公債購買を盛んならしめ其の間政府の公債の濫發を促しその公債の引受け等により新式銀行は巨利を博し勢金融業者は益々規模を大にしつゝあり次に上海支那新式主要銀行の利益表を擧ぐれば

一九三二年度後期支那主要銀行利益表

上海各銀行業同業會行市會報告

中央銀行	八〇〇萬元	二、〇〇〇萬元	二、〇〇〇萬元
交通銀行	一〇〇	二、七〇	二、五〇〇

現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機



1933年代表型

〔複製贈呈〕

製作發賣元

株式會社

大和三光商會

東京京橋區京橋三丁目二番地
 電話京橋(56)五三二〇番

- 營業課目
- 特許大和式自動輸送乾燥機
 - 特許帶川三光式乾燥機
 - 特許願やまヤホイロ機
 - 特許大和式熱湯自動還元機
 - 特許水野式改良ロールセンター
 - 特許アイエム・コルスター
 - 特許アイエム・ストーカー

交通銀行	100	1,000
上海商業銀行	100	1,000
金城銀行	100	1,000
中南銀行	100	1,000
浙江興業銀行	100	1,000
大陸銀行	100	1,000
浙江實業銀行	100	1,000

斯様な有様故支那農村の金融機關の不備金利の高い事は御話しにならない農民が冠婚葬祭或は災害に遇つた場合又は春季播種期の際には往々種代肥料代にも窮し地主又は商人質屋等より借金をするのが普通で此の場合利子は非常に高く質屋などは月一割八分乃至三割六分が普通で期間は一月から長きは八—九月である。

地主又は商人よりの現金借りは期間利子は各地により異なるが江蘇浙江の養蠶地は蠶忙時に「加一」とい

ふ方法で金を借りる、即一元借り四
十日の期間が来た時に元利合計二元
を返済する。之れを年利に直せば九
十割以上になる。又南通海間地方の
農民は一元借りると三ヶ月以内に棉
一俵返済する習慣で棉一俵は大抵三
—四元である之を年利に直すと一四
〇割からになる。
此等は少し極端な例であるが一般
に支那農村の金利の高い事は想像以
外である。

三、天災と人禍

(1) 天 災

- (イ)一九三〇年 西北地方陝西、甘
蘭地方の大旱魃
- (ロ)一九三一年 長江の大洪水
- (ハ)一九三二年 廣東省及山西省の
水害
- (ニ)一九三三年 黄河の洪水

(2) 人 禍

- (イ)軍閥の内年廿年來一日として内
亂の絶えし事なし
- (ロ)土匪海賊の横行

四、共産黨の跋扈

ソビエト、ロシアが對支赤化の
準備に着手したのは一九二一年で第
三インター東方部の編成陸軍大學東
方課創設でヨッフエ、カラハンの
來支により愈々具体化しその最初に
手を初めたのは廣東方面で初めカラ
ハンは支那知識階級一般が外國の
覇權から脱し様とする熱望あるを見
又國民黨及學生の左翼が被壓迫民族
の解放をモットーとする共産主義に
直ちに共鳴する可能性あるを看取し
大正十三年孫文の國民黨内に共産黨

員を入れ孫文の死後益々廣東政府の
左傾を促進し更に巧に人を送り廣東
政府の政治に參與させ又は軍官學校
に多數の露人教官を雇備させ同時に
武器彈藥資金等を供給し次で翌十四
年夏頃から廣東政府のソビエト化
を計りあらゆる機會をとらせ兵力を
以て反共産派を驅逐し遂に蔣、汪、
ボロチンの三頭政治を現出するに至
つた。

支那共産黨が正式指導部を有する
に至つたのは陳獨秀が中心となり大
正十一年七月第一回全國大會を開き
結黨し翌十二年第三インター支部と
して認められ其後國民黨と合流し順
に勢威を高めて労働者農民學生等
の參加する者多く國民黨の表看板と
して反帝國主義運動の勃興と労働運
動の助成とに全力を傾注し廣東を中
心として起りし對英經濟絶交に參加
大正十四年の上海五、卅事件を機と
し全國的に露骨な活動を開始し異狀
な戦線の擴大を齎らした所がその發
展と共に國民黨内に共産黨排撃運動
を惹起し其の結果は遂に大正十五年
蔣介石は武力を以て共産黨一派にク
デターを斷行したが尙共産黨の活
動は熾烈を極め上海、漢口方面で盛
んに活躍し農民運動の激化、漢口英
租界の暴力回收等の事件が次々／＼
と起るに至つた。

然るに蔣介石は昭和二年北伐進行
に伴ひ列國と協調を圖る上から南京
事件を機とし國民黨々派及共産黨に
弾壓を加へるに至り國民黨と共産黨
とは全く分裂し此處に於て共産黨は
從來の妥協的態度を棄て専ら武裝暴
動とテロにより共産革命の實現を企
圖し昭和二年十二月廣東暴動事件を
企てたが失敗し一般民衆の佳望を失

ひ又黨内の分裂を來し昭和三年以降
は農民運動の指導を第一とし全く潛
行的運動を取るに至つた。斯くして
その後共産黨の運動は表面化する事
がなかつたが南昌八、一暴動後廣東
福建、江西、湖南等の共産系軍隊は
農民を糾合して武裝せしめ之れが漸
次擴大し現在の如き非常な勢力とな
るに至つた。

第七回代議員 會開催

來る十一月二十三日午前
九時より母校講堂に於て第
七回代議員會を開催しま
す。

支會長各位には管内より
多數御出席下さる様御配慮
御願ひ申上げます而て御出
席下さる各位並に上田着時
刻が決定致しましたら本會
迄御通知下さい。

上田蠶絲専門學校
千 曲 會

共産黨が初めて現はれたのは昭和
二年二月で加龍、葉挺が武漢政府よ
り獨立して土匪的行爲を取りしに始
まり彼等は自ら紅軍と稱して居たが
後第三インターは國軍に對抗するた
め軍隊の必要を感じ之と連絡をとり
その後南部各省にも有力なる共産軍
の組織を見るに至つた、共産軍の兵
力は昭和五年には廿万と稱せられ同
六年夏には約卅万に増加其後益々勢
力擴大し現在は少なくとも四五十萬
に達し居る事と思はれる。

五、農業教育の欠陥

農村經濟の壞体は支那をしてソヴ
エートの乗すべき客觀的情勢を作り
その環境の下に於て支那ソヴエート
運動は農村に非常な勢を以て侵入し
遂に現在の如き擴大を促し而してソ
ヴエート勢力の擴大は更に支那に於
ける商業資本活動の範圍を狭め延び
て支那國民經濟に至大の打撃を與へ
つゝある。

北滿經濟發達の概要 (三)

四、滿洲軍變後の一

積年支那官憲の惡政暴虐及吾が權
益の侵害等に對し永年醞釀された忿
激は昭和六年九月十八日柳條溝に於
ける支那軍隊の鐵道爆破に端を發し
遂に滿洲事件を惹起し、爾後皇軍は
滿洲各地に支那軍閥を撃破殲滅し、
去歲三月一日三千萬民衆の輿望を以
て滿洲國建設せられ、滿洲國は王道
を以て民衆の福利を増進し、民族博
愛の精神に則りて世界平和に貢獻せ
んとしつゝあるは限前の事實であつ
て周知のこと故茲に詳説する事を省
くが、比の大變革に依つて北滿經濟
界に及ぼした變動及現在の狀況並に
將來に對する考察等を左に述べや
う。

前項に於て述べた如く滿洲事變前
の北滿經濟界は極度の不振状態に在
つたが事變後に至り當初は時局の見
極めは付かず在北滿舊支那軍閥連の
向背全く不明にて人心の不安甚しく
金融逼迫取引は總て手控られ毫も生
氣が無つた。

支那の國民は頗る保守自尊の念強
く改良進歩を企てず只管彼等獨自の
經營態を持続して居るに過ぎない、
當局又之に對し保護獎勵とか研究指
導機關の設備などをなす餘裕が全く
ない。
要之支那の農村は疲弊困憊の極に
陥り農民も土地も既に疲れ果て農村
の危機國本の動搖を來し支那は正に
崩壊せんとしてゝある様に思はれ
る。(終)

在哈爾濱 清水 術 敏

翌昭和七年一月二十五日頃より哈
爾濱市南方郊外に於て吉林軍及反吉
林軍對峙し皇軍は吉林軍援助の爲め
長春より北上せるが哈爾濱市内は戰
禍の中心となる變濃厚在留邦人四千
人は市内九箇所の避難所に籠城義勇
隊を組織し自衛手段を講じた、而し
て二月五日皇軍の哈市入城により邦
人は初めて愁眉を聞き露支人も一同
蘇生の思ひをなした。

當時經濟界は不振乍ら舊正月前に
て活潑の商狀を示し居りし際、俄然
哈爾濱事變突發せし爲め火の消えた
る如き有様に陥り商取引は全然停止
せられた皇軍入哈の翌日二月六日は
舊曆正月一日に當り滿商側は正月休
みに入り日露商は何れも開店し舊正
月明け後は哈大洋商も手傳ひ商況順
に活氣を呈した。
三月一日滿洲國の建設成り其後數
ヶ月は概して商狀平穩に過ぎたが八
月に至り未曾有の北滿大水災に遭遇
した。
當地商工會議所の調査によれば該

水害の損失高は (單位圓)

日本人側	一、八三八、七二七
朝鮮人側	三〇、五〇〇
露國人側	二、五二六、二七四
滿洲國人側	二〇、三六一、七〇一
合計	二四、七五七、二〇二

ハ爾濱に於ては該水害當時埠頭區方面(日本人、露國人最も多き商業地帯)は一ヶ月間全然取引停止され傳家甸方面(滿人の商業地帯)は二ヶ月餘大部分の商店が休業の止むなきに立至つた。

之の大水災は實に北滿經濟界に甚大の影響を與へ恢復の容易ならざるを痛感せしめた。

五、滿洲事變後の二

滿洲事變後北滿經濟界は異常の沈衰を來し、哈爾濱事變により一時は殆んど假死状態に陥りたるも皇軍入哈後生氣を恢復し一息つきたる時又々水害なる大打を受けたのであるが、其後漸次元氣を取り戻し今日に至つて居る而して滿洲事變前に比し著しく北滿經濟界を寂寥たらしめたのは哈爾濱事變後に於ける匪賊の横行である。丁超、李杜、馬占山、蘇炳文、王德林等の首魁は既に始末が付いたが未だ北滿各地には數十名又は數百名を一團とする小匪賊が幾組も蟠居し安寧秩序を阻害して居る。彼等の絶滅を圖る事は實に目下の急務である、今北滿財界を概括的に一瞥するに、地方の秩序未だ恢復せざる爲め、産業企業は起らず商取引は邦人を顧客とする邦商が繁昌し居るのみにて、輸出入貿易業者及露滿人を顧客とする商店は事變前に比し甚しく取引高を減じて居る。

北滿輸移出入貿易額を昭和元年以來七ヶ年に亘り表示すれば左の通りである。(單位百萬圓)

年次	輸移出	輸移入	合計
昭和元年	二二〇	一三〇	三五〇
二年	二二〇	一九〇	四一〇
三年	二〇五	二二二	四二七
四年	二二六	二二〇	四四六
五年	一五〇	一六〇	三一〇
六年	一四五	一五五	三〇〇

昭和五年以降貿易額の激減して居るのは農産品價格の下落、銀貨暴落露支抗争事件、滿洲事變、匪賊跳梁等の諸原因に據るものである。

右輸移出品の主要品は大豆、豆粕小麦、麥粉等の穀類品であつて其輸出高は全輸移出高の約九〇%を占めて居る。

次に輸移入品の主要品は綿糸布、麻袋、砂糖、礦油、絹、毛織物及雜貨類であつて爲替關係により日本製品は特殊の物を除き歐米品を驅逐して逐日其の勢力を増しつゝある、今北滿經濟界の將來を卜するに、滿洲國は行政、司法各段に亘り略々整備の實を擧げ居り、近き將來に於ては匪賊の掃蕩も完了す可く又諸法令も完備し滿洲國建設に當り四海に聲明せる如き秩序整然たる樂土が形成せらるゝことは疑を容れざる所であつて、農、林、畜、鑛、工業業勃興し貿易亦股盛を期し得べく前途實に洋洋たる希望に輝いて居ると謂へる。又斯くあらしめて母國の人々食料問題の解決を圖り我が國威を發揮するにあらねば、滿洲事變に際し護國の鬼となられた幾多の我が忠勇義烈なる將士の英靈に對しても、國家の支出せる巨額の軍費に對しても訥に相濟まざる次第であるから吾人は確

固たる決意を以て滿洲國の發達を促進せしむると共に我が經濟勢力の進展に對し益々努力奮闘すべきものと確信す。(終り)

年賀廣告募集

千曲時報編輯部

例年の如く千曲時報新年號に年賀廣告を登載し發行日を正月一日に臨時變更する事と致しました。就きましては左記御承知の上何卒御申込み下さい。

- 一、本紙に年賀廣告を出された各位は別に本會々員宛賀状は省略せられ度し。
- 二、御申込は十二月廿日までに到着する様千曲時報編輯部宛端書にてお願い申します。
- 三、千曲時報は會員全部即ち現職員賛助員より舊職員賛助員まで残らず配布して居ります目下の發行部数は千五百五十部であります。
- 四、廣告料として金五十錢申受けます。便宜上同窓會振替口座東京四三三四一番へ年賀状なる旨御明記の上御拂込下さる様御願ひいたします。

山陰の秋

確水 茂

山陰の旅はこれで二回目。十月八日の午後四時頃、松江の驛へ下車した。街をドンドン歩いてゐたら橋の上へ出た。左はあの大きな

宍道湖。右は日本海に連なる大水道である。この橋を大橋といふ。橋を渡り切つて直ぐ左側を見ると、湖へ突き出た宿屋がある。海に親しむつもりでこの宿へ泊る大きな宿ではないが海を見るには好都合な宿であるなには館といつたやうに記憶する。

昨夜は夜行なので疲れてゐるからゆつくり休むつもりで早く宿へ這入つた。湖へ臨んだ部屋の藤椅子へ腰を下してゐると宍道湖へ映る夕陽が素晴らしく美しい。ハゼ釣る人に乗せた舟が數多く湖に浮いてゐる。僕の居る部屋の直ぐ下にも釣つてゐる。僕は宍道湖へ映る夕陽をながめながらハゼ釣る姿に見入つてゐた。暇な体で、二、三日ハゼでも釣つて見たいと思つた。

九日の朝縣廳へ出頭した。こゝで打ち合せることがあるからである。ここには田ノ浦準備さんがゐる。田ノ浦さんに島根縣の蠶絲業につき話を覗つた。とりわけ組合製絲の様子を詳細にうかがつた。

二時間許りを利用して、直ぐ近くの松江城を尋ねた。天守閣が残つてゐて昔の話を語りたげである。天守閣へ登ると松江の市街が手に取るやうに見える。

天守閣を守る番人の説明によるとこの城は二百何年か昔の建築であるといふことだ。この城の特徴は、城の屋根から屋根へ渡ることの出来るやうに出来てゐることと、この城が高い場所に在るにも拘らず、外

からよく見えないために昔の戦ひの上に甚だよいといふことと、非常に短日月で出来上つた城であるといふことである。

昔松江の城下では薬用人蔘の製造が盛んであつたといふ。この薬用人蔘は支那・朝鮮方面へ賣り出したものであるといふ。しかも松江藩はこの薬用人蔘の貿易によつて甚だ富んでゐたといはれてゐる。然しいまは昔の傳がない。

薬用人蔘の栽培は時の城主が栃木縣へ人を派して、その栽培方法をぬすませたのだといふ。當時栃木縣下の薬用人蔘の栽培は秘密にされてゐた村のもの以外には知らしめなかつたが故に、この盗みに行つた男は、土地の女と結婚して栽培方法を盗み取つたといはれてゐる。

こゝは又例の小泉八雲氏によつて著名である。小泉氏はギリシヤに生れ、後英米を経て日本へ渡來し、この地の師範學校と中學校の先生をしてゐた。その頃八雲氏は富田屋といふ宿(今でもあるが)に宿を取つてゐて、下駄の穿き方や、水の吸み方を習つてゐたのだといふ。

今松江市の、八雲氏の最初の住宅のところへ八雲氏を記念するための記念館を新築中であるといふ(僕は行き度かつたが餘裕がなくて行かれなかつた)ことであつた。

その晩濱田迄行き、濱田の宿で休み、十日の朝、組合製絲濱田社へやつて行つた。こゝには佐藤興四次さん(絲八)が活動してゐられた。

その晩濱田迄行き、濱田の宿で休み、十日の朝、組合製絲濱田社へやつて行つた。こゝには佐藤興四次さん(絲八)が活動してゐられた。

濱田から汽車は海岸を縫つて更に西へ進む。この汽車は益田から分れて山口縣の小郡へ行くのである。益田から高津川に沿つて湖る。秋空晴れて空気が益々透明になる。日本海岸を選ざかるに従つて山紫水明、日原驛(鹿足郡)へ着くと一見信州の空を思はせる程空が碧い。

日原村に組合製絲石西社がある。こゝに工場長として手塚芳太郎さんが赴任してゐられる。手塚さんには僕が上田の學生の頃福島縣郡山の片倉紡績で面會したことがある。手塚さんはその頃の心持ちとチツトも變つてはをらない。手塚さんはこゝへ來られてからまだ一ケ年にはならないが、手塚さんの就任以來、工場の成績がグングンのびてゐるといふので神崎社長は大變喜んでゐられた。ここには准會員の中澤利子嬢が見える。手塚さんの紹介で拜顔の榮を賜ふ。

× ×
ここは高津川のほとり、夏には鮎がはねるといふ。夕餉の御馳走に大きな鮎が出た。

× ×
それから鳥取へ米子から渡村へ行き弓濱組合製絲を見、引き返して皆生温泉へ行く。泊るつもりだったが二階の客が宴會を始めて喧ましく仕方がなかつたので米子へ逃げ歸つて了つた。

× ×
米子では伯西社の繭市場を視る。次に伯智大山で下車して伯西社大山工場を尋ね、八橋で下車して蠶業社製絲場を訪問し、上井で下車してこれも組合製絲同業社を參觀、終つて鳥取で一泊。

× ×
次の朝鳥取縣廳へやつて行く。農務課を尋ねて、蓬台技師に面會。鳥取縣に於ける蠶絲業の様子を尋ねる。

× ×
こで一泊。
十三日の朝姫路を立つて神戸へ。三の宮で下車して明海ビルを尋ね、絲聯神戸事務所へ立ちよる。須田國之助さんに初めて面會。須田さんは昨夜横濱から歸つたのだといはれる。堂々たる体格の御仁、惜しいことに髪が年にも似あわずちよつと薄

× ×
が丁度髪頃である。今日は半日なのでもう機械も停つておれば、係の人達も大方引きあげて了つた後だ。正量部長の沖さんに面會する。沖さんから蠶絲業問題の御高説を覗ひ、所内を見せて頂く。數年前僕が尋ねた頃から見ると、大擴張をされてゐる。參觀中大塚さんに逢ふ。まだその他の人達にも逢ひ度かつたが、も

蠶絲學雜誌原稿募集

肅啓 時下益々御清榮の段奉賀上候 陳者既に多大の御援助相仰居候本會蠶絲學雜誌既に御承知の通り第五卷第一號より下記の内容に改め一層會員諸君の希望に應じ度所存に御座候間従前以上の御後援を賜はり下記各項の何れにても御貴稿の御惠投を仰度此段折入つて御願申上候 敬具

蠶絲學雜誌編輯內容

- 1 報 文 蠶絲科學に關する凡ての學術的研究報告。但し歐文抄譯を要す
- 2 調 査 蠶絲學上必要な實用的調査研究、歐文抄譯不要。
- 3 肥 料 蠶絲科學の研究調査に必要な参考資料、即新學說、實驗方法新著並に特許等の紹介。
- 4 抄 録 歐文及邦文雜誌にして學術的並に實用的價值充分なりと認むるもの。

發行及原稿締切期日

號	發行日	原稿締切期日
第一號	六月	四月末日
第二號	八月	六月末日
第三號	十二月	十月末日

追而近く第六卷第二號を發刊いたすべく候に付きよろしく御利用被下度候 尙從來發行期日に狂ひを生じ居り候も漸次豫定通りにいたす様掛くべく候

上田蠶絲專門學校(千曲會)

蠶絲學雜誌編輯係

× ×
かの隧道をくゞつて城崎へ出る。餘裕のある旅ならば、まだ一度も尋ね

× ×
過ぎてゐらつしやる。

× ×
う誰もをらない。

× ×
もいゝのだが、日の定つてゐる旅はさうは行かぬ。玄武洞の名勝も探つて見たいのだがバス。和田山で播垣線へ乗りかへて、竹田・新井等を過ぎ、鏑山で名高い生野の銀山を眺めながら長谷・寺前を経て姫路へ。こ

× ×
絲聯から日本綿花へ電話をかけたら青木友彌君がこちらへ來いといふ。出かけて行くと、君は午後一時に姫路へ行くのだといふ。蠶を共にして分れる。

× ×
夜行で東海道を下つたはいゝが、途中で團体の連中が乗り込んで閉口名古屋へ來たら夜が明けた。団体連中がこゝで下車したのでヤット一息それから東海道をウツラウツラしながら歸つて來た。

(一九三三・一〇・二五)

金剛山踏破行

朝鮮 O 生
滿洲 Y 生

◎は半島に來てから前頭部が段々朝鮮の昔の山に似て來つた。Yは最近双巒に薄霜を置いて來た高島君ではないが、お互もうそろそろ初老だ、歳は争へぬものだと思ふ。

◎は京城の仲間では絶景組と呼ばれて居る(之は京城近郊の峻嶺登攀の際兎角杖を留めて絶景を賞する回数と時間多きに依り頂いた尊稱)Yは永く汽車はロハ人力や馬車賃も馬鹿に安い滿洲生活の御蔭で十町以上は最近歩いた事が無いと言ふ文明人である。

◎もう山は寒いでせう……僕は山から歸つて一週間は階段が上れませんでした……等々先輩の話を跡に輕裝甲斐々々しく京城を發つたのが十月廿四日の夜十時半。寝台車に夢をさせて江原道の外金剛驛着が九時。それからバスが一里。温泉里の温泉宿に少憩、案内人を雇入れ先づ外金剛探勝と出掛ける。

いきなりもう數千尺の絶壁、累々たる巨岩、白砂、碧流、岩窟を貫いて亭々たる老松(凡て五葉松)、紅葉、千曲川畔の布引の觀音の絶景の更に幾十倍の大觀。最初から無條件で感服して仕舞ふ。尙も溪流に添ふて進めば遂に萬物相の勝地に到達する。此處は名の如く

削り立ちたる百千尺の峻嶺絶壁の上に怪岩奇石が様々の形を以つて危くも乗り懸て居る。鐵鎖を命の綱と鑿立の峭巖の巖頭に攀ち登れば千仞の絶壁の下に風颯々として膝から下は震ひ出す始末。宿に引返したのは日没の頃であつた。素朴なる温泉に浸り日本の鮮魚を肴に。風氣に包まれて夢に入る。

明くれば愈々全長七里毘盧峰越の大難行路である。握飯も特に二分を用意し案内人を先達に出發八時。新羅時代(千三百年前)の古刹今様仙人の棲む神溪寺を跡に途は紅葉を踏で爪先上りに登つて行く事一里。忽ち大溪流が開けて来る。紅葉老松と參差し果々たる巨石溪谷を塞ぎ余りにも清き溪水は雪と砕くる清流となり碧玉を沈めたる深潭となり時に軽々たる飛瀑となり西側には峻峯雲表に峭立し人は僅に小く溪流の巨岩の斜面を危くも傳ふて行くのである。龍神棲むてふ傳説を秘めて物凄き九龍淵の大飛瀑まで一里はその景觀應接に遑なしと言ふ有様である。之より道は愈々峻嶺、千仞の絶壁峭角に架けし鐵鎖を攀り岩間より前方を眺むれば始めて目指す金剛最高峰五千尺の毘盧峰は山姿雄然として眼界に入れども容易に達すべくもなく。之より更に一里の急坂を辿らねばならぬ。之より林相變じ松少く白樺、ナラ等の密林にて而も葉落ちて枯骨稜々。人語を聞かず栗鼠のみカサコソと出沒するの一人寂しい有様である。結んで融けざる霜柱を碎き落葉を踏んで喘々峰に近づけば溪流には水柱水

晶の如く連り山は這松と矮生二十三尺の白樺に蔽はれ景觀は全く高山帯にして既に多景色。憩えば冷氣肌骨に徹し長く留るべくもな

頂上よりの眺は實に天下の大觀である。峨々たる金剛壹萬二千の峭立せる峻峰は脚底に朝し山また山。東方遠く日本海の雲水髣髴たる有様實に雄渾無比である。

普通は此處にある山莊に泊るなれど今は客も少く山寒く既に閉鎖下山の後なれば不得止勇を鼓して峠を下りて内金剛を経て長安寺に向ふ。

之の邊外金剛と異り黒色青苔の峻峰巖然として屹立し怪松叢生し暮色迫る中を危き岩角を傳ふて千仞の谷に下りて行くのは物凄

之の途は三年前開鑿のものにてそれまでは之の峻嶺を踏破する者一ケ年に數名しか無かつたと案内人が語つて居たのを見てもその峻嶺な事が判る。

佛蹟摩訶衍に到れば萬瀑洞の溪流美に達する。一里の間千姿萬態の深潭溪流の連続である。行人は巨大なる岩を傳ふて行く。一步を誤れば數丈の斜面を轉々として水の如き物凄き深淵に吞まれねばならぬ。日は落ち月は出でたれど山峽暗く行路困難である。岩角薄氷に滑りつゝ長安寺の宿に着いたのが七時半。肴は燒鳥に山の芋。

山男とは縁の遠い兩人には相當コタヘタ。碌に物も言へぬ。硬張つた脛を撫でつゝ溪流の音を現に聞いて夢に入る。

翌日は千古の碧潭明鏡台、昨夕見残しの萬瀑洞の溪流美を觀賞し長

安寺ホテルで解散式を擧げ三時五十分發の電車にて出發京城着が九時四十五分即ち此行車中共にて三泊三日の旅行である。

昔つてあの毒舌無比の皮肉屋のハインゲがわざ／＼ゲートを訪ねた時その神の如き温泉に打たれて何言も語る事が出来ず只「ワイマールの梅は大變奇麗でした」と語つたのみであつたと物の本に書いてある。我々が今クリストに逢ふたら物が言へるだらうか。

景色もそうである。金剛山の如き拜啓時下秋冷の候益々御清穆之段奉賀候陳者小生事農林省蠶絲局蠶業課在動中は公私共格別の御懇情を忝うし感銘罷在候處今般病氣靜養の爲退職許可相成近く歸郷の豫定に有之候に就ては將來共尙宜しく御願申し度先は不取敢以紙上御禮旁々御挨拶申上度如斯御座候

敬具

養蠶科第九回卒業生
小口一枚

景色を表現叙述し様とするのは寧ろ胃潰に墮し滑稽に類する。内地の諸壇の大家がよく筆を載せて入山するが何れも筆を擲けて奈しく歸るそうである。

金剛山は峰の數壹萬二千と言はれ廣袤二十五万里詳しく見れば一ケ月よく見て十日最もアツサリ見て三日と謂はれて居り我等も遂に海金剛丈は割愛した次第である。

兎に角天地の神々が花崗岩の素材に數十万年の年月をかけて削り成

した大彫刻である。峻嶺、奇峰、碧濤飛瀑老松、青苔、紅葉、幽谷密林凡ての山岳美、溪流美、森林美の超綜合藝術である。而も新羅以來の佛蹟と數多の傳説とは此の巖山に崇高な寂を興へて居る。

百千の確氷、妙義、寢覺、耶馬溪も恐らく之の豪宕麗麗の奇勝には及ばぬであらう。我等未だ内地の山水で之れ程の大景に接した事は無い。文句も批評もない唯々頭が下る。歸來數日今尙山の靈感活々として躍動して居る、偉人傑士に遭ふた跡の氣持もこうであらうか。

兎に角大きな無形の收穫であつた内地から熊々見物に來ても決して悔ゆるなき大觀である。況や半島通過の諸兄は是非共立寄らるべき勝地なる事を斷言する。

x x x x

その雄大なる全景、山体の大膽なる構成、懸垂せる絶壁、斧鉞嘗て入らざる處女林、その怪奇なる峽谷、純潔なる瀑布、急湍、深淵に表るる光線と色彩の變化、——あゝ世界の何處にその匹儔があらうか。

—Dr. Krüger (菊地幽芳譯)
(一九三三、一〇、三一誌)

十月二十二日午後一時より小縣郡別所温泉栞屋別館で當支部第七回總會が開かれた。定刻前に既に多數の會員が參集した。流石は百六十名近くの會員を擁する大支部の事ではあり折柄の秋晴れの好天氣に恵まれ秋の散策に好チャンスだつた事とて集まる者六十六名の多きに達し、本部の理事長を始め幹部の方々も支部では平會員として總出動され仲々の盛會だつた。やがて御田支部長の開會の挨拶に續いて次の如く會は進んだ。

一、支部長よりその後の支部の経過並會員の動靜が報ぜられた。

昨年の會員數は一五六名だつたが他へ榮轉した者二五名及死亡一名を減じ新加入の者二九名を増したので現在一五九名となつた、死亡一名は養蠶科第十八回卒業業の一ノ瀬貞嗣氏である。同氏は前途幾春秋に當む青年にして俄かに逝去せられた事は誠に御氣の毒に耐えな

二、金崎幹事より會計報告があつた昨年の繰越金十六圓六十八錢であるが本部より交付される配當金があつたので一ケ年の支部の生活費二十圓に支部總會費補助として七十圓計上した事を説明した。(此の金は當支部の重要なる附帶事項たる懇親會の補助とするものである。本年は特別に補助を多くしたので所大多數の參集を得たので電車賃安會費を引きくるめて僅かに一圓の會費だつたので豫算の七十圓では不足になつてしまつた) 満場異議なく議決した。

三、役員の変更は銜衛委員の慎重審議の結果、支部長として四度御田氏を推戴することとなり代議員に左の五名が當選した。

中澤忠(糸一)飯島正胤(糸二)猪坂直一(糸六)勝又藤夫(蠶九)櫻井隆夫(紡四)

其他評議員幹事も決定した。

四、代議員會提出問題に就き特に二十五週年祝賀式並に記念事業に關し支部としての意見を協定した。斯くして午後四時半一先づ會を閉じそれから懇親會に移る。

地元村長として倉澤美徳氏より開會の挨拶を兼ね地元として當地の美形多數を待らすべき筈だったが今後斯の如き事を例とせば地元の人に對して御迷惑の事だらうと思つて御遠慮致した次第といふ事を報告せられて會場は一興を興へられた、挨拶が終つて互ひに氣の合つた同窓だけに宴は正に酣ならんとした所飯島正胤氏立ちて一同に計り自己紹介を提案し、先づ自己よりとて生年月日、住所氏名並に職業として、小縣蠶業學校に職を奉じて十有八年新恩給法によつても既に恩給に達してゐると一流のユーモラスな口調で紹介あり、其れから次々と巡りて飯島氏の所へ戻つた時飯島氏又立ちて只今の自己紹介を私が採點をして見た所皆非常に成績よく六〇點以下は一人もなく八〇點以上が非常に多く次の如くであるとして十有数名を指名した、流石は學校の先生だけに一同一入觀を深からしめた、更に浦生氏の提案にて校旗作製の意見があり一同賛成ありて北信支部の万歳を三唱した、時未だ早かりしも遠路參集の方々もある事とて午後七時閉會實に愉快な一日を過ごした。(H.M.)

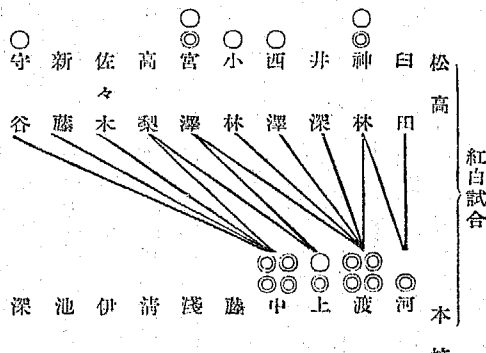
NEWS 放送局

流石に秋は天高く、紺碧の空澄み渡り

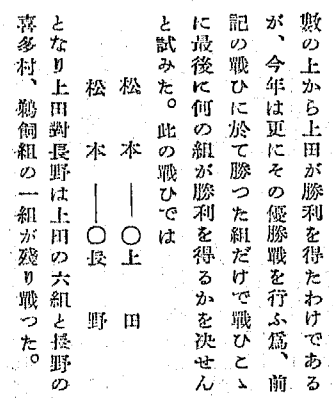
地上至る所スポーツの世界が展開する。日曜といふ日曜、祭日といふ祭日も日尙足らずといふ有様である。

松高對本校柔道及劍道試合
十月八日於本校道場。

柔道 戦へば必勝たるべき再校の柔道部も本年は脚か手古拙つた様である。互に一勝一敗引分けたく観衆も固唾を飲み拳に汗して觀るの大接戦を演じた。遂に將同志の一騎打にまで至り將に引分にならんとする頃我軍の大將市原能く敵を押し込んだのであるが、何たる痛恨事ぞ、タイム係の誤りから、充分な時間は過ぎても通告なくその間に敵は体を外して遂に引分けの止むなきに至り残念ながら長蛇は我が手中を逸し去つたのである、戦



蠶業關係者選球リーグ戦
十月八日、於本校庭球コート二個所。詳報は後に記載すとして簡単に結果を記す。



順次の通り
紅白試合
松高 野尻
先鋒 佐藤 末次
宮下 橋本
前橋 山口
渡邊 沼
田上 黒岩
輪湖 副田
佐々木 小松
阿部 山本
古思 市原
副將 岩田
大將 岩田

斯くて
長野 野上 田
といふ結果で長野の二組が上田の六組を一括して茲に優勝の榮冠は喜多村鶴組に歸するといふ奇妙な結果を産んだ。

母校陸上大會 十月十五(日)。本校の運動會は既に上田名物の一つとして数へられ、三歳の児童も此の日を待ち焦がれてゐる有様である。恰も和祭りの折柄とて觀衆は早朝よりワンサ。中には觀衆を見に来る人もあり又造りの林間食堂などが、見合ひの場所にはされるといふから油断がならない。各科の應援團振りも堂に入つたもので今では運動會の應援團か應援團の運動會か判らぬまでになつてゐる。此の日二百五十若人の血潮の高鳴りは想像以上であるといひ度い。又此の日特筆すべきは

職員ダルマ活し競走で校長先生のみが唯一人賞を得られた事である。之は十米許り先方台上に座せる遊騎大將を手持の日カクシをして進み竹刀をもつて叩き落すのである。容易の如くして容易でない業である最初に校長先生。何といふ事か、先生はまるで手拭に孔でもあいてゐる時の様にグングンと進んで正しくダルマの一步手前に停止、ヤツと掛辭諸共一本オツキをやられたものである。此の鋭い太刀先にダルマ大將も何條もつたまるべき、そのまゝもんどりうつて地上に落ちてしまつた。觀衆の喜びと賞讃は一通りではない。之に續いて阿形先生はじめ腕に自信のありさうな數多の先生方が何のこれしきのと名々えらい勢ひで出たは出たが或者はずつと手前で空を撃つもの、初めから角度に相違を來してゐるもの三米も過ぎてから土を叩くものまで誰一人之は惜しいといふ所まで行つたものさへない位の不出來さであつた。流石にダルマにも鑑がある。校長先生にならば打たれても見たいであらふ。否校長先生御自身その神力が備つてゐたと考へるのが妥當かもしれない。

も一つ職員借物競走に倉澤さんが一等をとつた。借物はマツチだつた。遠くに見てゐた人が「あの人は別に觀衆の誰からも借物をした様子はなかつたが良く一等になつた」と、認識不足の言葉を吐いたかどうかは知らぬが、私達も之からマツチ一個位は借りずに済む様に自分で用意しておかう。平常の心掛が大それた大變教へられる所があつた。

本年度(第十八回)陸上運動會對科レース得點表

種目	養蠶科	製絲科	絹紡科
一〇〇米	5	1	0
二〇〇米	3	2	1
四〇〇米	1	2	3
八〇〇米	4	2	0
一五〇〇米	4	2	0
長距離	3	3	0
走中跳	2	3	1
三段跳	3	3	0
走高跳	3	3	0
走高跳	3	3	0
棒高跳	3	0	3
砲丸投	5	1	0
圓盤投	3	3	0
鉛投	2	4	0
八〇〇米リレー	3	2	1
計	42	81	11
總人員	一〇七	九五	三九

對東京高蠶技試合 十月二十二日於上田市營グラウンド。勝たねばならぬ筈の試合に無念、只の一點の差で血涙呑んだ。

試合成績

Table with columns for event name, participants, and scores. Includes events like 一〇〇米, 三段跳, 走巾跳, etc.

學生野外演習

十月二十五日より四日間、上信國境に近き山の湯新鹿澤温泉を中心として施行。...

明治神宮修育大會柔道會大學專門學校代表選手権試合

十月二十九日、於日本青年會館講堂。本校を代表して、否本縣を代表して此の晴の檜舞台に...

る、二段の小松君の相手として不足はなかつたであらうが、此の勝負止むを得ない。...

市長カップ争奪戦に優勝カブ獲得 十月二十九日、於上田市警グラウンド...

一之瀬貞嗣氏 弔慰金募集 本會々員一之瀬貞嗣氏(鑑十八)豫而御病氣の處...

今校内に飾られてゐる。 萩原清治君の結婚 十一月二日、本校に於ける新進の助教...

千曲會日誌

十月十二日 母校生理學實驗室に於て第七回代議員會開催の件に關し理事會開會...

竹内清氏弔慰金募集 本會々員竹内清氏(鑑六)豫而御病氣の處養生不相...

十月二十九日 新潟縣五泉町に於て新潟千曲會總會開催せらるる本會より倉澤理事出席...

口座加入者名義上田蠶絲專門學校創立二十周年記念事業協賛會とあるを千曲會に變更の件長野貯金支局へ請求書提出せり

支會長交迭

左の通り支會長の交迭がありました 近畿千曲會長 就任 高田茂重郎氏 退任 藤井 料氏...

振替貯金口座加入 本會に於て加入致して居りました振替貯金口座東京四三三四一番の名義は「上田蠶絲專門學校同窓會」...

編輯室から 信州高原を彩る紅葉も終りに近づきました。 學校記事なるべく多く書きたいと思ひますが、會員諸兄の原稿ももつと多數頂きたいと思ひます。

十一月四日 三重縣龜山町に於て三重千曲會總會開催せらるる本會針塚名譽會長出席せられたり 十一月六日 長野六二四三番の振替貯金合ふ様お願申します。